

Asia Indicators

発表日: 2024 年6月 28 日(金)

ニュージーランド、輸出入ともに底入れが続く(Asia Weekly(6/21~6/28))

~台湾は輸出財を中心に生産が底入れし、雇用を取り巻く環境も改善が続く~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/21(金)	(香港)5月消費者物価(前年比)	+1.2%	--	+1.1%
6/24(月)	(ニュージーランド)5月輸出(億 NZドル)	71.6	--	63.1
	5月輸入(億 NZドル)	69.5	--	63.2
	(シンガポール)5月消費者物価(前年比)	+3.1%	+3.0%	+2.7%
	(台湾)5月失業率(季調済)	3.35%	--	3.39%
	5月鉱工業生産(前年比)	+16.06%	--	+14.48%
6/25(火)	(マレーシア)5月消費者物価(前年比)	+2.0%	+1.9%	+1.8%
	(香港)5月輸出(前年比)	+14.8%	--	+11.9%
	5月輸入(前年比)	+9.6%	--	+3.7%
6/26(水)	(オーストラリア)5月消費者物価(前年比)	+4.0%	+3.8%	+3.6%
	(シンガポール)5月鉱工業生産(前年比)	+2.9%	+2.0%	▲1.2%
6/27(木)	(フィリピン)金融政策委員会(翌日物借入金利)	6.50%	6.50%	6.50%
6/28(金)	(韓国)5月鉱工業生産(前年比)	+3.5%	+3.0%	+6.2%

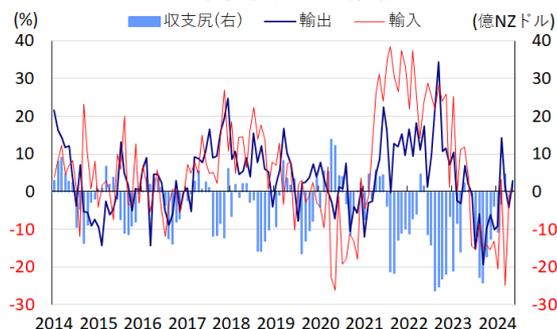
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[ニュージーランド]~輸出入ともに底堅い動きをみせるなか、輸出額は月次ベースで初の70億 NZドル台に~

24日に発表された5月の輸出額は前年同月比+2.9%となり、前月(同▲4.2%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+4.4%と前月(同▲0.4%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちしている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きをみせている。財別では、機械製品関連や果物などの輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、主力の輸出財である乳製品や食肉、木製品などの輸出が拡大しており、輸出全体を押し上げている。国・地域別でも、EU向けは頭打ちする展開が続いているものの、最大の輸出相手である中国向けが底入れの動きを強めているほか、米国や日本など先進国向けのみならず、ASEANなどアジア新興国向けの堅調さも輸出を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比+0.6%となり、前月(同▲0.8%)から3ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+3.4%と前月(同+10.0%)から2ヶ月連続で拡大するとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底堅い動きをみせている。国際原油価格の頭打ちの動きを反映して原油や石油製品関連の輸入に下押し圧力が掛かる一方、電気機械関連をはじめとする機械製品の輸入拡大の動きが輸入全体を押し上げている。結果、貿易収支は+2.04億NZドルと前月(▲0.03億NZ)

Zドル) から2ヶ月ぶりの黒字に転じている。

図1 NZ 貿易動向の推移



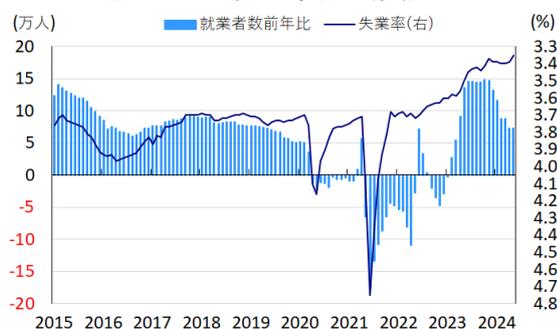
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～主力の輸出財関連を中心に生産拡大の動きが続くなか、雇用を取り巻く環境も改善が続いている～

24日に発表された5月の失業率(季調済)は3.35%となり、前月(3.39%)から0.04pt改善している。失業者数は前月比▲0.4万人と前月(同▲0.2万人)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少ペースで推移するなど調整の動きが続いている。新卒、既卒問わず全般的に失業者数が減少する傾向がうかがえるとともに、非自発的失業も減少傾向が続くなど雇用を取り巻く環境は改善している様子がうかがえる。こうした状況を反映して雇用者数は前月比+1.1万人と前月(同+0.2万人)から拡大ペースが加速するとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。分野別でも製造業で底打ちの動きがうかがえるほか、サービス業でも堅調な推移をみせるとともに、建設業では底入れの動きを強める動きがみられるなど、幅広い分野で雇用を取り巻く環境が改善している。さらに、雇用環境の改善を受けて労働力人口は前月比+0.7万人と前月(同+0.0万人)から拡大ペースが加速するなど労働市場への参入意欲が高まっており、労働参加率も59.27%と前月(59.25%)から+0.02pt上昇している。

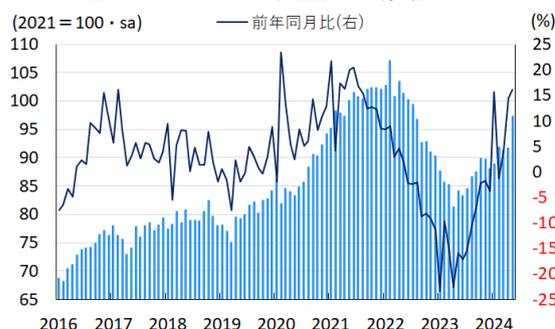
また、同日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+16.06%となり、前月(同+14.48%)から伸びが加速している。前月比も+6.17%と前月(同+0.44%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。すべての分野で生産拡大の動きが確認されるなか、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連、医薬品をはじめとする化学製品関連など輸出財関連を中心に生産拡大の動きをけん引している様子がうかがえる。

図2 TW 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

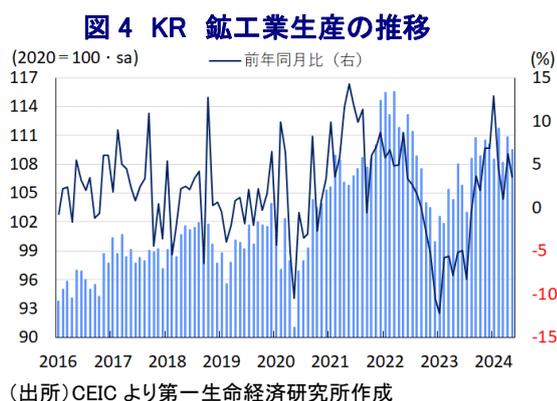
図3 TW 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[韓国]～主力の輸出財である半導体の生産は堅調も、その他の幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かる～

28日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+3.5%となり、前月（同+6.2%）から伸びが鈍化している。前月比も▲1.2%と前月（同+2.4%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向で推移するなど力強さを欠く推移が続いている。鉱業部門のみならず製造業部門の生産も下振れしており、財別では主力の輸出財である半導体など電子部品関連や縫製品などで生産に底堅さがうかがえる一方、電気機械関連や自動車をはじめとする輸送用機械関連、化学製品関連など幅広い分野で生産活動に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、外需を巡る不透明感が生産活動の足かせとなっている様子がうかがえる。



[シンガポール]～食料インフレの動きが続いている上、幅広くインフレ圧力が強まる兆候もうかがえる展開～

24日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+3.1%となり、前月（同+2.7%）から加速して3ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も+0.70%と前月（同+0.09%）から上昇ペースが加速しており、国際原油価格の底入れの動きに一服感が出たことを反映してエネルギー価格は落ち着いた動きをみせる一方、穀物や生鮮品を中心に食料品価格は上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.10%と前月（同+3.09%）からわずかに伸びが加速している。前月比は+0.11%と前月（同+0.36%）から上昇ペースが鈍化しているものの、エネルギー価格の上昇一服の動きを反映して輸送コストに下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、幅広く財、サービスの両面で物価上昇圧力がくすぶる状況は続いており、全般的にインフレ圧力が強まりつつある様子がうかがえる。

26日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+2.9%となり、前月（同▲1.2%）から3ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+1.06%と前月（同+7.54%）から2ヶ月連続で拡大するなど底入れの動きを強めているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど依然として勢いを欠く推移が続いている。なお、同国においては月ごとにバイオ・医薬品関連の生産が上下に大きく振れるとともに生産全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲6.58%と前月（同▲7.51%）から3ヶ月連続で減少するなど大きく下振れしている。よって、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは前月比+7.74%と前月（同+3.96%）から2ヶ月連続で拡大するとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。主力の輸出財である半導体など電子部品関連の生産が拡大の動きを強めているほか、化学製品関連の生産も堅調な推移をみせるなど外需関連産業で生

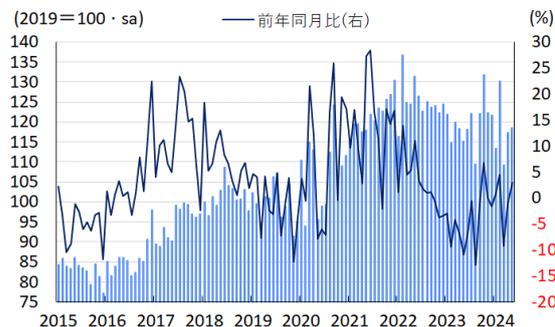
産拡大の動きが続いていることが影響している。

図5 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～生活必需品のみならず、財、サービス問わず全般的にインフレ圧力が強まっている模様～

25日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+2.0%となり、前月(同+1.8%)から伸びが加速している。前月比も+0.30%と前月(同+0.15%)から上昇ペースが加速しており、穀物や生鮮品をはじめとする食料品価格で上昇の動きを強めるなど生活必需品でインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+1.94%と前月(同+1.87%)から加速するなど2ヶ月連続で底入れしている。前月比も+0.38%と前月(同+0.15%)から上昇ペースが加速しており、輸送コストの上昇や国際金融市場における通貨リング安による輸入インフレの動きも重なり幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、サービス物価にも上昇圧力が掛かるなど全般的にインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

図7 MY インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

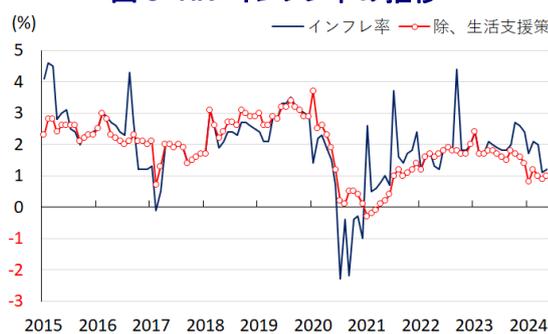
[香港]～生活必需品を中心に物価上昇一服、全体的にインフレ圧力が後退している様子もうかがえる～

21日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+1.2%となり、前月(同+1.1%)からわずかに伸びが加速している。ただし、前月比は▲0.19%と前月(同▲0.65%)から2ヶ月連続で下落しており、国際原油価格が頭打ちの動きを強めていることを反映してエネルギー価格に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、食料品価格も落ち着きを取り戻す動きをみせるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。香港では2007年から断続的に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、その影響を除いたベースでも当月は前年同月比+1.0%と前月(同+0.9%)からわずかに伸びが加速している。前月比は+0.00%と前月(同+0.09%)

から上昇ペースは鈍化しており、一部の財価格や住宅関連で上昇圧力がくすぶるものの、サービス物価をはじめとする幅広い分野で下押し圧力が掛かる動きが確認されるなど、全般的にインフレ圧力が後退している様子が見えてくる。

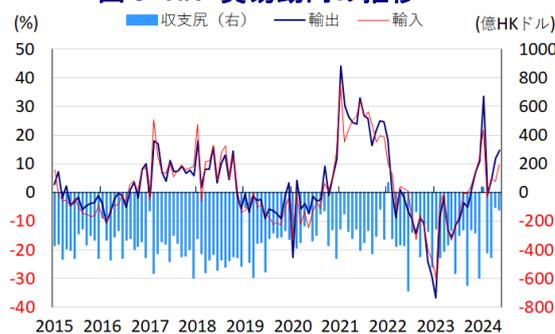
25日に発表された5月の輸出額は前年同月比+14.8%となり、前月（同+11.9%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移しており、前年比で高い伸びをみせているのとは異なる状況にある。財別では、電気機械製品関連の輸出は力強さを欠いているものの、金属製品関連や化学製品関連など素材や部材関連の輸出の堅調さが輸出全体を下支えしている。国・地域別では、中国本土向けの輸出は下振れしているものの、米国や欧州、日本向けなどで堅調な動きがみられるほか、アジア新興国や中東、アフリカなど新興国向けの堅調さが輸出を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比+9.6%となり、前月（同+3.7%）から伸びが加速している。前月比も2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出と対照的に底入れの動きが続いている。商品市況の調整の動きを反映して鉱物資源関連の輸入は下振れしているほか、機械製品関連の輸入も力強さを欠く一方、食料品や化学製品関連などの堅調さが輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は▲121.43億HKドルと前月（▲101.94億HKドル）から赤字幅が拡大している。

図8 HK インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。